

## 千葉県税理士会船橋支部 支部長賞

### 税と私の出会い

船橋市立湊中学校

第一学年 平松 愛空

あれは小学五年生のとき、私は近所のコンビニエンスストアで、友達と一緒にお菓子を買いに行きました。表示されていた金額は二百円未満だったので、二百円を財布から出してレジに向かいました。ところが、店員さんに「お金が足りません」と言われ、私はとても驚きました。そのときは今でもはっきり覚えています。自分ではきちんと計算したつもりだったのに、どうして足りないのか全く理解できませんでした。

そのとき、私は「消費税」がかかっていることを初めて知りました。値段に上乗せされていることを知らず、自分のお金が取られたような少し嫌な気持ちになったのを覚えています。税金という言葉は聞いたことがありましたが、生活の中でどのように関わっているかは考えたことがありませんでした。店員さんの「足りません」という言葉が、私にとつ

て税金の存在を知るきっかけになったのです。税金は社会全体を支えるために使われています。税金がなければ、学校や道路、病院、消防や公共交通など、私たちの生活を支えるさまざまな仕組みが成り立ちません。そのことに気づいたとき、私は税金の重要さを実感しました。また、税金は自分たちが安心して生活できる社会を作るために必要なものであり、誰もが関わるものだとなりました。

それ以来、私は買い物をするときに「税込み」「税別」という表示を意識するようになりました。最初はお金の計算のためでしたが、今ではそのお金の一部がどのように使われているかを考えるようにもなりました。税金はただ国に取られるお金ではなく、社会全体を支え、私たちの生活をより良くするためのとても大切で欠かすことのできないものだと思っています。

私が直接納めているのは消費税ですが、将来大人になったときには、きちんと納税して社会の一員として責任を果たしたいと考えています。その一方で、本当に自分にできるのかという不安もあります。そして、税金の使い道にも関心を持ち、無駄なく使われているかどうかを考えられる人になりたいです。

また、税をテーマにした課題を通して、私たち子どもが税金について理解を深め、関心を持つ貴重な機会になっています。こうした経験は、税の重要さを考えるきっかけになり、私たちにとって大切な学びの場になっていると思います。

「お金が足りません」と言われたあの日の出来事は、私にとって税金を考える大きなきっかけとなりました。これから、税についての知識を深め、社会とつながる意識を持ち続け、少しずつでも自分なりに考えて行動できる人になりたいと思います。そして、周りの人にも税の大切さを伝えられるようになり、将来は社会に役立つ大人になり、周囲の人と協力してより良い社会を作っていきたいと思っています。